

大垣市の子どもの居場所の考え方について

子どもの基本的な居場所は家庭です。学校や園、その他様々な場所も子どもの居場所になっています。しかし、その居場所が十分であるとは言えない状況にあるため、今、改めて求められている子どもの居場所について、本市の考え方をまとめました。

1 居場所の必要性

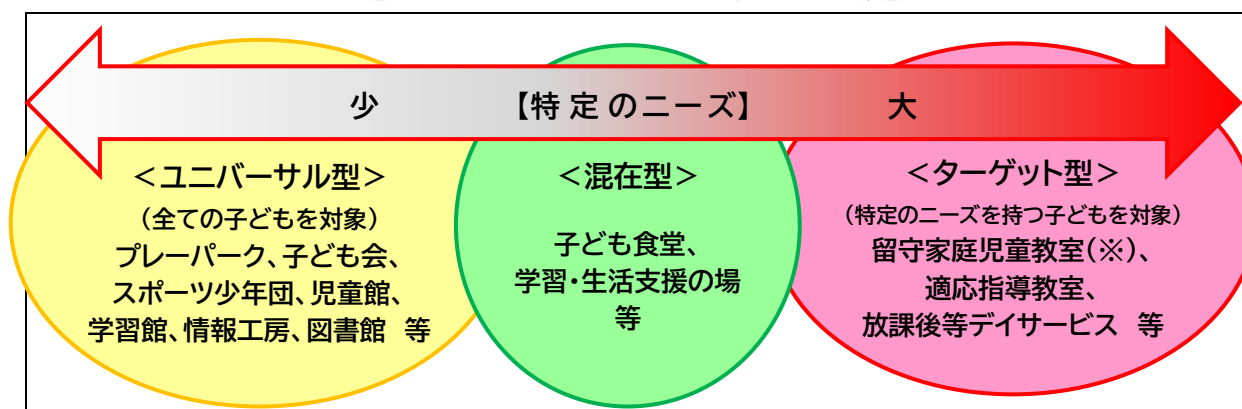
こども家庭庁が示した「こどもの居場所づくりに関する指針（令和5年12月22日閣議決定）」では、子どもは、家庭を基盤とし、学校や地域などの様々な場所で、様々な人と関わりながら成長していく存在であるとされています。また、地域のつながりの希薄化や少子化により、子どもたちが、地域のコミュニティで育つことが困難になっており、子どもたちを含んだ地域交流の場を新たに作り出そうとする営みが必要であるとされています。

加えて、児童虐待やいじめ、不登校など、子どもを取り巻く課題が複雑かつ複合化しています。さらに、子育て等の価値観が多様化する中、今までの枠組みでは十分に拾い切れないニーズが生まれています。そうしたニーズに対応するため、子どもの声や意見を聴きながら、新たな「居場所づくり」が必要であるとされています。

2 居場所の分類

居場所には様々なものがあり、様々な分類ができます。国の調査研究や指針にあるように、特定ニーズへの対応といった面からみると、「ユニバーサル型」、「混在型」及び「ターゲット型」として整理できます（図1参照）。「ターゲット型」は、個別ニーズに対応したきめ細やかな支援の提供機能が中心となり、行政で対応する部分が多い型です。「ユニバーサル型」は、子ども・若者同士や地域住民間の交流、つながりの提供機能が中心であり、主に自治会等の地域団体が担ってきた型です。

【図1 ニーズからみた居場所の分類】



(※)：性格的にはターゲット型。利用割合からみるとユニバーサル型。

3 本市の居場所の現状

本市においては、スイトピアセンターや情報工房、大垣公園等の拠点的な施設において、様々な体験や学習、遊びの機会を提供しています。その他、各校区に整備した地区センター等においても、地域活動や学習活動など、子どもを交えた活動を展開しています。

また、子ども食堂などの活動も活発に行われています。

【表 1 大垣市の主な居場所】

区分	主な居場所
1 集う者あるいは利用する者が予め限定される居場所	
(1) 主に行政サービスとしての活動や場所	① 学校、保育園 ② 留守家庭児童教室 ③ 子育て短期支援、一時預かり、ファミリーサポート ④ 放課後等デイサービス ⑤ 児童発達支援、日中一時支援 ⑥ 適応指導教室（ほほえみ教室、とまり木教室） ⑦ 児童館、江東地区センターこどもの城 ⑧ 地域子育て支援センター ⑨ スイトピアこどもクラブ など
(2) 主に民間や地域等の活動や場所	① 家庭 ② 地域子ども活動支援事業 ③ 地域家庭学習支援・子ども会 ④ 学習塾・各種教室 ⑤ 少年団・スポーツクラブ など
2 集う者あるいは利用する者が限定されず、自由に利用できる居場所	
(1) 子どもたちの育ち合いや大人とのふれあい、遊びや学びの活動や場所	① 児童遊園地（自治会等が提供し、市に登録されているもの） ② 公園・緑地 ③ スイトピアセンター（図書館、水のパビリオン、こどもサイエンスプラザ等）、情報工房（デジタルひろば）、市民プール、地区センターなどの施設 ④ 子ども食堂などの活動 ⑤ 店舗や事務所等を利用した居場所 など

4 本市の子どもたちのニーズ

本市が令和5年9月から10月にかけて実施した「こどもの居場所アンケート」によると、家や学校以外の居場所の有無等については、次のような状況（中学生）が明らかになりました。

ある	ない	考えた事がない・分からない
605人（45.2%）	191人（14.3%）	541人（40.5%）

○居場所が「ない」と回答した生徒191人のうち、

- ・149人（78.0%）は「要らない」としており、その理由は、135人（70.7%）が「家や学校に居たいから特に必要ない」としている。
- ・居場所が「欲しい」と回答したのは、42人（22.0%）。全体としては、1,337人中42人（3.1%）である。

○居場所があると回答した生徒の主な居場所は、

- ・祖父母や親せき、友達の家329件（23.5%）、
- ・部活や習い事、塾 257件（18.4%）等のほか、オンライン空間と回答した生徒もいる。

「居場所がある」あるいは家や学校に居たいなどの理由から「居場所は要らない」という回答も多く、生徒たちは自分なりの居場所を有している状況にあるが、現在居場所を有している生徒や居場所がなくて欲しいという生徒なども含め、意向としては、620人（46.5%）の生徒が居場所は欲しいと回答しており、居場所を求めている子どもが自分に合った居場所を見つけることができるよう、多様な居場所づくりが必要であると思われます。（※アンケート調査結果の概要は別添資料参照）

5 本市が目指す子どもの居場所

(1) 定義

子どもたちにとっての居場所は、物理的な場所だけではなく、遊びや体験活動、自由な空間や時間、オンライン上の空間など多種多様であり、子どもたちが過ごす場所・時間・人との関係性の全てが居場所となり得ます。どこを、何を居場所と感じるかは、子どもたち本人が決めることであるなど、居場所は「主観的」、「流動的」であり、大人が考えるものと異なることもあります。

そうしたことを理解しながら、子どもたちの「行きたい」、「居たい」、「やってみたい」という主体性を尊重し、心のよりどころとなる居場所、さらには、子どもをまんなかにし、地域の人たちが集える「居場所づくり」が求められていることなどを踏まえ、子どもの居場所（営利目的で行われる活動等は除く）を、子どもたちが、家庭や学校とは異なる人間関係や環境の中で、安心して安全に、仲間たちと一緒に学んだり遊んだりできる、あるいは、一人で自由に時間を過ごすことができるなど、子どもたちが主体的に過ごすことができる場 と定義します。

(2) 対象

子どもの居場所は、発達過程にある子ども全般を対象とし、主として小中学生を想定しますが、子どもの居場所は、子どもをまんやかに捉えつつ、子どもたちが、家庭や学校とは異なる人間関係や環境の中で過ごす場であることから、子どもや居場所の運営者だけでなく、広く地域の人たちをも対象とすることを目指します。

※「こども」とは、こども基本法において、心身の発達の過程にある者と定義。

児童福祉法においては、「児童」を満18歳に満たない者と定義

(3) 居場所のエリアと機能等

居場所は、子どもたちが集い、積極的に活動を楽しむ居場所もあれば、大人たちの緩やかな見守りの中、ゆったりとのんびりと過ごす居場所もあります。何処を居場所と考え、そこをどのように捉えるかは子どもたちなので、施設ごとの区分は行いませんが、本市では、エリアと機能の2つの視点で居場所を整理します。

先ず、居場所となる施設の性格等を踏まえ、エリアの視点から、次の3つに分類しました。

④ 拠点的な居場所	市の拠点的な施設における居場所
⑤ 地域の居場所	子どもたちが自転車等で行くことができる校区内の居場所
⑥ 身近な居場所	子どもたちが歩いて行くことができる居場所

さらに、機能の視点から次の2つに分類しました。

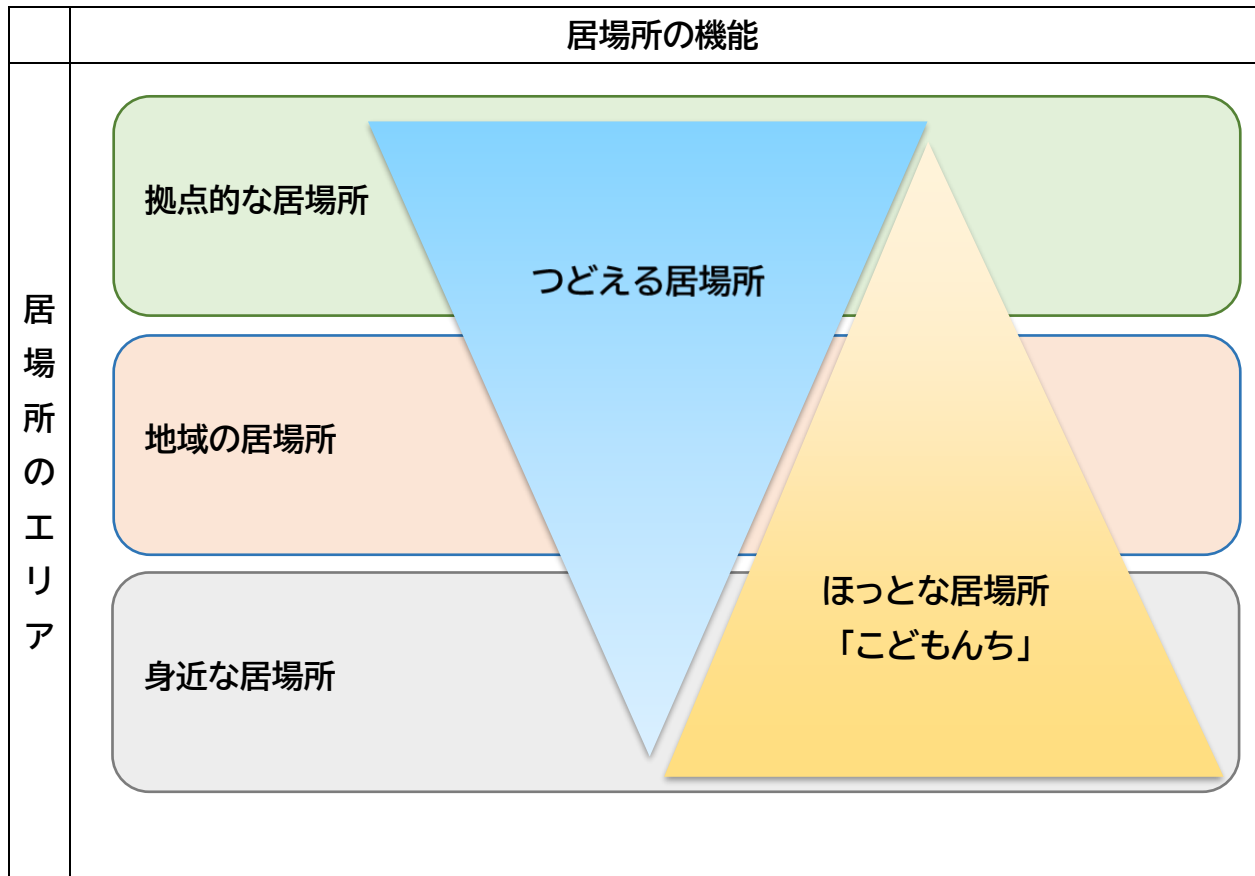
① つどえる居場所

子どもや地域の人たちが集い、活動する居場所で、主として市民団体や地域団体等が、体験学習、講座、教室や子ども食堂等を展開する居場所をイメージします。

② ほっとな居場所

子どもたちが、大人たちの緩やかな見守りの中、自由に、ゆったりと過ごせる居場所をイメージします。なお、この「ほっとな居場所」については、愛称を「こどもんち」と定め、運用しています。

【図2 居場所のエリアと機能】



6 今後の展開

子どもの居場所は、子どもたちの「行きたい」、「居たい」、「やってみたい」場所であることが必要ですが、子どもの思いは同じではありません。子どもたちの声や意見を聴き、子どもたちと一緒に居場所づくりに取り組めばよいと考えています。

(1) 拠点的な居場所

主には「つどえる居場所」をイメージし、市の拠点的な施設等を活用し、現在の利用状況等を踏まえ、児童館のような機能を含んだ居場所の提供を図ります。

(2) 地域の居場所

各校区に設置された地区センターについては、子ども食堂を含め、子どもに係る事業等も行われていますが、地域等における各団体の活動なども積極的に行われています。そうした地域の既存事業の中に、子どもたちが参加することにより、事業や活動が活性化するとともに、子どもたちの居場所づくりにつながるような取組を促進します。

(3) 身近な居場所

主には「ほっとな居場所」をイメージし、子どもたちが、場面切り替えをしたり、楽しんだり、ほっとすることができる最も身近な居場所として、賛同者を募りながら新たな居場所づくりを進めます。

(4) 民間団体等の支援

民間団体等で運営される子ども食堂や居場所活動等に対して補助するとともに、関係機関と連携し支援機能の強化等を図ります。

(5) 既存の居場所の拡充

多くの子どもたちの居場所となっている学校や園の充実のほか、留守家庭児童教室の拡充、学校施設の更なる活用、学習や体験機会の提供、子どもの居場所になる公園や施設の整備等により、多面的な居場所づくりに努めます。

参考資料 1 : 検討経過等

1 意向調査等

(1) こどもの居場所アンケートの実施

- ① 調査対象 小学3～6年生及び中学生（小学校・中学校各5校）
- ② 調査期間 令和5年9月19日～10月6日
- ③ 調査方法 学校で使用しているタブレットからGoogleフォームを利用して回答
※小学生を中心に、先生が意味等を解説しながら回答をサポート
- ④ 回答状況

区分		対象者	回答者	回答率
小学生	3～4年生	696人	646人	92.8%
	5～6年生	801人	723人	90.3%
中学生	1～3年生	1,676人	1,337人	79.8%
計		3,173人	2,706人	85.3%

(2) 子育て支援に関するアンケートの実施（こどもの居場所に関する設問あり）

- ① 調査対象 16歳以上（高校生世代含む）
- ② 調査期間 令和6年1月29日～2月13日
- ③ 調査方法 郵送。子育て支援施策の満足度・重要度についてもあわせて調査。
- ④ 回答状況 配布800通 回答数282通

2 こどもの居場所づくり実施団体との意見交換会・ヒアリング

(1) 子ども食堂運営団体

- ① 意見交換会 第1回 令和5年5月16日（火）7団体参加/7団体
第2回 令和5年6月29日（木）6団体参加/7団体
- ② 個別ヒアリング 令和5年11月20日（月）～令和5年12月1日（金）11団体/11団体

(2) 居場所づくりモデル事業実施団体

- ① 個別ヒアリング 令和5年12月20日（水）～令和6年 1月12日（金）8団体/11団体

(3) 子ども食堂運営団体・居場所づくりモデル事業実施団体

- ① 情報交換会 第1回 令和6年 5月16日（木）10団体参加/20団体
第2回 令和6年10月10日（木）10団体参加/26団体

3 大垣市こどもの居場所づくり懇談会

開催日等	議題
令和5年度 第1回 6月2日（金）	・こどもの居場所づくりに向けた現況報告について ・こどもの居場所の検討に向けた意見等について ・懇談会の進め方の検討について
第2回 7月21日（金）	・こどもの居場所づくりの取り組み状況について ・学校施設を活用した居場所づくりについて ・地区センターを活用した居場所づくりについて ・こどもの居場所アンケート調査（案）について
第3回 10月31日（火）	・こどもの居場所づくりモデル事業補助金の申請状況について ・こどもの居場所アンケート調査の報告について ・こどもの居場所の整理について
第4回 12月12日（火）	・大垣市のこどもの居場所について ・子ども食堂運営団体への個別ヒアリングについて
第5回 2月13日（火）	・大垣市のこどもの居場所の考え方（案）について ・こどもの居場所づくり実施団体へのヒアリング総括について ・次年度モデル事業（案）について
令和6年度 第1回 4月30日（火）	・令和5年度の検討経過について ・令和6年度こどもの居場所づくりモデル事業（案）について ・令和6年度の主な取り組みについて
第2回 8月21日（水）	・居場所活動における実施マニュアル（案）について ・こどもの居場所づくり補助制度（案）について ・大垣市のこどもの居場所の考え方について（最終報告素案）
第3回 1月28日（火）	・大垣市のこどもの居場所の考え方について（最終報告素案） ・子どもの居場所活動における実施マニュアル（案）について ・子どもの居場所づくり補助制度（案）について

4 庁内検討会議

- ・ 令和5年度 第1回 令和5年 5月18日（木）
- ・ 第2回 令和5年 7月 7日（金）
- ・ 第3回 令和5年11月22日（水）
- ・ 第4回 令和6年 2月 6日（火）
- ・ 令和6年度 第1回 令和6年 4月19日（金）
- ・ 第2回 令和6年 8月14日（水）
- ・ 第3回 令和7年 1月21日（火）

5 子育て支援会議

- ・ 令和5年度 第3回 令和6年2月27日（火）
「大垣市のこどもの居場所の考え方について（案）」について協議
- ・ 令和6年度 第6回 令和7年2月10日（月）
「大垣市の子どもの居場所の考え方について（案）」について協議

参考資料２：アンケート調査の概要

■こどもの居場所アンケート（学校依頼。令和5年9月19日～10月6日実施）抜粋

1 【現状】家や学校以外に居場所はあるか？

<中学生>（回答者数1,337人）

ある	ない	考えた事がない・分からない
605人（45.2%）	191人（14.3%）	541人（40.5%）

- ・「ある」の主な居場所：祖父母や親せき・友達の家 329件（23.5%）
部活・習い事・塾 257件（18.4%）

▽居場所は「ない」と回答した場合、居場所は欲しいか？（回答者数191人）

はい	いいえ
42人（22.0%）	149人（78.0%）

- ・「いいえ」の主な理由：家や学校に居たいから特に必要ない135人（70.7%）

2 【意向】家や学校以外に居場所が欲しいか？

<中学生>

欲しい	欲しいと思わない
620人（46.5%）	712人（53.5%）

<小学5～6年生>

欲しい	欲しいと思わない	考えた事がない・分からない
204人（30.9%）	78人（11.8%）	378人（57.3%）

▽「欲しい」と答えた場合、(1)それはどこで、(2)どんなことをしている場所か？

<中学生>（※複数回答）

- (1) ①友達の家 270件（26.7%）
②習い事・クラブ活動 190件（18.8%）
③公園 178件（17.6%）
④放課後の学校 144件（14.2%）
⑤図書館 137件（13.5%）
- (2) ①何をすると決められずのんびりと過ごす 342件（30.7%）
②公園や自然の中で遊ぶ 249件（22.3%）
③ものづくりや音楽、科学、スポーツなどの講座 181件（16.2%）
④学習支援・子ども食堂 177件（15.9%）
⑤悩みごとの相談にのってもらえたりサポートしてくれる 75件（6.7%）

<小学5～6年生>（※複数回答）

- (1) ①祖父母の家 71件（24.7%）
②公園 56件（19.4%）
③分からない 44件（15.3%）
④放課後の学校 39件（13.5%）
⑤その他 32件（11.1%）

- (2) ①行きたい時に自由に行ける 101件 (20.0%)
 ②友達と一緒に過ごせる 101件 (20.0%)
 ③ご飯やおやつを食べることができる 78件 (15.5%)
 ④悩み事や相談にのってもらえる 71件 (14.1%)
 ⑤一人で過ごせたり何もせずのんびりできる 70件 (13.9%)

■「子育て支援に関するアンケート」と「こどもの居場所アンケート」の比較

(※子育て支援に関するアンケートは16歳以上を対象に、令和6年1月29日～2月13日実施)

1 どこが居場所としてよいか？

<中学生>

区分	1位	2位	3位
子ども	友達の家 26.7%	習い事・クラブ活動 18.8%	公園 17.6%
保護者	習い事・クラブ活動 22.6%	放課後の学校 19.4%	公園／地区センター ／図書館 12.9%

<小学5～6年生>

区分	1位	2位	3位
子ども	祖父母等の家 24.7%	公園 19.4%	放課後の学校 13.5%
保護者	公園 25.7%	放課後の学校 20.0%	祖父母等の家 17.1%

2 どのような活動をしている場所が居場所としてよいか？

<中学生>

区分	1位	2位	3位
子ども	何をすると決められず のんびり静かに過ごせ る場所 30.7%	公園や自然の中で遊べ る場所 22.3%	ものづくりや音楽、科 学、スポーツ講座等を やっている場所 16.2%
保護者	何をすると決められず のんびり静かに過ごせ る場所 22.9%	無料で勉強をみたり、 無料・安価で食事等が できる場所 20.0%	ものづくりや音楽、科 学、スポーツ講座等を やっている場所 17.1%

3 どのように過ごせる居場所が良いか？

<中学生>

区分	1位	2位	3位
子ども	いつでも行きたい 時に行ける 14.4%	好きなことをして 自由に過ごせる 10.6%	お金をかけずに過ごせる 10.5%
保護者	いつでも行きたい 時に行ける 14.3%	子どもが安心して 過ごせる 11.7%	お金をかけずに過ごせる／ 家や学校から近くて行きやす い／いろんな人と出会えたり 友達と一緒に過ごせる場所 10.4%